

仏像展示館、リニューアル！

岩田 茂樹（当館学芸部長補佐）

奈良国立博物館には明治二十八年（一八九五）以来、百十五年の歴史があります。薩摩出身の建築家、片山東熊の設計になる開館当時の展示館は今も現役で、代表的な明治の洋風建築として重要文化財に指定されています。近年、この建物は奈良国立博物館でお預かり（寄託）、ないしは所蔵している彫刻のための専門の展示館として用いています。

いうまでもないことですが、仏像等の彫刻は立体ですから、光の当たり方によつて全く違った風に見えます。仏像が展示される特別展などでは、しばしば特別に電気配線工事をして、魅力的な照明を工夫している光景を目にされることも多いと思います。ところがこの展示館では、建物が重要文化財であるところから、みだりに壁に穴をあけるわけにもいかず、かんたんな工事ひとつ行うのも難しいのです。

かろうじて中央の大きなホール（第1室）だけは壁付ケースの上部に配線ダクトを仕込み、それなりの照明が可能になってはいますが、多くの部屋では展示ケース内の天井の蛍光灯しかないのです、小さな仏像だと顔の表情があまり見えなかったり、立体感の乏しい感じになったり、この点が彫刻展示の担当者として悩みの種だったので。

現在、当館は西新館等の耐震補強工事を行っていますが、この機会に他の展示館も見直そうという話になり、ようやく、仏像展示館についても全室にわたって照明を一新できることとな

りました。そのため、いったん一時休館の上、工事を進めています。設備が整う以上、展示された仏像がより良く見えるか否かは、今後の担当者の努力次第ということになります。乞うご期待！と言いたい反面、責任の大きさも感じています。

ところで、これまで仏像展示館は本館という名前で呼んできたのですが、今回、この呼び名についてもあらため、昨今増えつつある仏像ファンの方々にもっとアピールしていきたいと考えています。何を隠そう、奈良国立博物館の仏像展示館の展示作品は、へたな特別展の比ではないレベルです。ぜひ、すばらしい作品の数々に逢いに來てください。再オープンが7月21日です。



第1室（中央ホール）の工事風景。天井照明改修のための足場が林立している。

一時休館のお知らせ

当館は現在耐震補強工事を進めております。そのため各館に一時休館の期間がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、どうかご理解頂きますようお願い申し上げます。

◆全館休館

耐震補強工事のため、6月21日（月）～7月20日（火）の間、全館休館をいたします（ミュージアムショップ、レストランもお休みいたします。）

◆西新館の一時休館

西新館は耐震補強工事のため、昨年11月中旬より一時休館しております。再開は本年（平成22年）10月の予定です。

◆本館の一時休館

本館は特別展「大遣唐使展」期間中（4月3日～6月20日）、特別展の会場となり、平常展（仏教美術の名品〈彫刻〉）はお休みとなります。また6月21日（月）～7月20日（火）は、展示替えのため休館いたします。

◆仏教美術資料研究センターの一時休館

仏教美術に関する図書や写真資料を収蔵し一般に公開しております当館の「仏教美術資料研究センター」は、耐震補強工事にもない、昨年10月より一時休館しています。再開は平成23年春の予定です。